

## 「最後に顔を見せて」願い届かず…亡くなった妻は“まるで危険物扱い”

9/1 西日本新聞



新型コロナウイルスで亡くなった人の最後の別れでは、火葬時に顔が見られないなどさまざまな制限を受けることがあり、遺族はつらい思いを余儀なくされている。“未知のウイルス”の特徴が分かり、感染対策が緩和されつつある一方で、葬儀や火葬の対応はこの2年間ほど大きく変わっていない。遺体からの感染対策として料金も上乘せされており、遺族からは憤りの声が上がっている。

「陽性者は当日に火葬」

「もう息をしていないのに、こんなに怖がらないといけないのでしょうか」。そう語るのは福岡県筑紫野市の篠倉邦男さん（80）。妻の久枝さん（享年 85）を

先月 7 日に亡くしたばかり。死因は老衰だったが、新型コロナウイルスに感染していた。

今年に入り少しずつ体力が衰えていた久枝さん。体調を崩し入院した際に感染が判明し、5 日後に亡くなった。葬儀業者に連絡をすると「コロナ陽性者は当日のうちに火葬しなければならない」と説明され、病院から火葬場に運ばれた。

「袋に入っているから」

東京から駆け付けた長男夫婦のためにも「最後に顔を見せて」と頼んだが担当者は「袋に入っているから見られませんよ」。篠倉さんは「病院では容体が厳しいからと感染後も面会できたのに、亡くなった途端にまるで危険物扱い。対応がちぐはぐだ」と話す。

厚生労働省などは 2020 年 7 月、業者向けに「非透過性の納体袋に収容することを推奨」「24 時間以内に火葬ができる」といったガイドラインを提示。今年 6 月には「顔の部分が透明な納体袋」を使用するよう改めて周知した。ただ、現在もなお、別れ際に顔も見られないケースが相次ぐ。

### 触れる程度で感染せず

イベントの入場制限やマスク着用の基準など、新たな知見に沿って感染対策が緩和されてきたのに比べると、過剰な対応が続いていると言えそうだ。

そもそも遺体から感染する可能性があるのか。京都大の橋口隆生教授（ウイルス学）は「せきや会話をしないので飛沫（ひまつ）感染はない。唾液などの体液に接触すれば可能性はゼロではないが、皮膚に触れる程度では感染しない」とした上で「納体袋の使用をやめることも検討してもいい」と話す。

### 33 万円の遺体搬送費

篠倉さんには費用の面でも疑問が残る。葬儀費用とは別に「遺体搬送費」として 33 万円かかった。詳細を尋ねると「運送会社に委託しているので内訳は分からない」と返ってきた。

国民生活センターによると、感染者の火葬や葬儀について「一律 34 万円だと言われた」「見積もりの 38 万円のうち 25 万円が感染対策費だった」といった相談が寄せられているという。金銭的な負担は全国的に問題となり、長崎県西海市など搬送費を補助する自治体

も出てきている。

### “特別扱い” 仕方ないのか

国民生活センターの担当者は「業者側も一定の対策が必要なので金額の妥当性は判断できないが、複数の親族で見積もりに対応するなどしてほしい」と話す。

新型コロナの死者は23日に過去最多の343人に上った。篠倉さんは訴える。「コロナ禍だから仕方ないとは思えない。こんな“特別扱い”があってもいいのか多くの人に考えてほしい」（斉藤幸奈）